

平成25年度  
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2014

新潟県長岡市教育委員会

平成 25年度  
長岡市内遺跡発掘調査報告書

2014

新潟県長岡市教育委員会

## 例　　言

1. 本書は、長岡市内で計画された開発工事に先立って実施した試掘・確認調査の報告である。これらは平成25年度国庫・県費補助金の交付を受けて実施した調査である。
2. 調査主体は長岡市教育委員会科学博物館である。
3. 本文の執筆は、新田（1・7）、山賀（2・3・4・5）、丸山（3）、加藤（6）で分担し、編集は新田が行った。図版などの作成は一部で整理作業員の協力を得た。
4. 遺物番号は遺跡ごとの通し番号である。
5. 土層柱状図における  は遺物包含層を示す。
6. 出土遺物や写真及び測量図面などの記録類は長岡市教育委員会が保管している。
7. 現地調査から本書の作成に至るまで多くの方から御協力、御教示を賜った。記して御礼を申し上げる（五十音順・敬称略）。

上条高畠地区画整理組合 芹川町町内会 高橋調査設計株式会社 株式会社中越自動車学校 寺泊大地集落  
長岡地域振興局農林振興部農地整備課 石坂圭介 駒形敏朗 宮尾亨

## 目　　次

1	平成25年度長岡市内遺跡発掘調査の概要	1
2	町田地区試掘調査	3
3	上条地区試掘調査（地区画整理）	4
4	上条地区試掘調査（携帯電話鉄塔）	8
5	日越地区試掘調査	9
6	稻場遺跡確認調査	10
7	高山城跡確認調査	12
8	芹川地区試掘調査	14



第1図　長岡市の位置



写真1　調査風景（上条地区）

## 1 平成 25 年度長岡市内遺跡発掘調査の概要

平成 25 年度に長岡市教育委員会が実施した遺跡の試掘・確認調査は 7 件である。このほか、諸開発に伴う工事立会いを 6 件実施している（平成 26 年 1 月 31 日現在）。平成 17 年の新長岡市誕生以降に実施された試掘・確認調査は、平成 20 年度をピークとして減少傾向にあったが、平成 24 年度は増加に転じ、今年度も昨年とほぼ同数の調査件数であった。県営ほ場整備事業が調査原因の多くを占めていた時期と比べて、事業者や対象事業が多様化しているという傾向は続いている。民間事業については、計画から実施までの期間が極端に短い事業と、数ヶ年にわたる計画・協議期間を経てようやく試掘・確認調査の実施に至るような事業とに二極化している。

本年度の試掘・確認調査の結果について概観する。本年度実施済の 7 件のうち、遺構や遺物が検出されたのは 3 件である。土地区画整理事業に伴う上条地区試掘調査では、平安時代の遺構・遺物などが出土し、上条遺跡・上条北遺跡の発見となった。このうち上条遺跡においては、今年度末から記録保存を目的とした本調査を実施する予定である。総合支援学校グランド等整備事業に伴う日越地区試掘調査は、縄文土器が 1 点出土した。遺物の出土もほぼなく、遺構も検出されなかったため、これをもって新発見の遺跡とするには至らず、本調査の実施は不要と判断した。稻場遺跡における確認調査は、今後実施予定の本調査に向けて、協議資料の補足、そして対象範囲の精査を目的として行った追加調査である。遺構・遺物の検出はなかったが、この成果を踏まえて、より実態に即した協議を進めることができとなった。自動車学校整備事業に伴う高山城跡確認調査では、平安時代及び中世の遺物と、遺構を検出した。これについては調査後の協議によって事業計画が変更され、遺跡は現状保存された。

第 1 表 平成 25 年度長岡市内遺跡調査一覧（本書掲載の調査はゴシック体で示した）

地域	地区	調査原因	結果など
寺泊	稻場遺跡	県営ほ場整備事業	確認 遺構・遺物なし
	新保入遺跡	県営ほ場整備事業	立会 遺構・遺物なし
和島	浦反甫西遺跡	河川改修事業	本調査 掘立柱建物・溝 / 須恵器・土師器・珠洲焼
	浦反甫東遺跡	河川改修事業	本調査 溝・旧河道 / 須恵器・土師器・珠洲焼等
与板	本与板城跡	説明板・標柱建立	立会 遺構・遺物なし
	与板城跡	樹木伐採	立会 遺構・遺物なし *3 月中に実施予定
長岡	山下 A 遺跡	市道改良事業	本調査 土坑・溝 / 縄文土器・珠洲焼
	抜間遺跡	県営ほ場整備事業	本調査 土坑・溝 / 須恵器・土師器・木製品
	盲田遺跡	県営ほ場整備事業	本調査 柱穴 / 須恵器・土師器・漆器・丸瓶・錢貨
	高山城跡	自動車学校整備事業	確認 土坑・溝 / 須恵器・土師器 / 珠洲焼
	上条地区	携帯電話通信塔事業	試掘 遺構・遺物なし
	上条地区	土地区画整理事業	試掘 ピット・溝 / 須恵器・土師器・土錐
	町田地区	高压線鉄塔移設事業	試掘 遺構・遺物なし
	日越地区	総合支援学校グランド等整備事業	試掘 遺構なし・縄文土器
	芹川地区	市道改良事業	試掘 遺構・遺物なし
	長倉地区	市道改良事業	試掘 * 3 月中に実施予定
	長岡城跡	店舗建設事業	立会 遺構・遺物なし
	長岡城跡	消雪用井戸整備事業	立会 遺構・遺物なし
	藏王堂城跡	柵設置	立会 遺構・遺物なし
	岩瀬遺跡	県営ほ場整備事業	立会 * 3 月中に実施予定
	杉本遺跡	県営ほ場整備事業	立会 * 3 月中に実施予定



第2図 平成25年度調査位置図 (1/250,000)

## 2 町田地区試掘調査

調査地 長岡市上条町 417 番地 3

調査面積 32.0 m<sup>2</sup> (対象面積 225 m<sup>2</sup>)

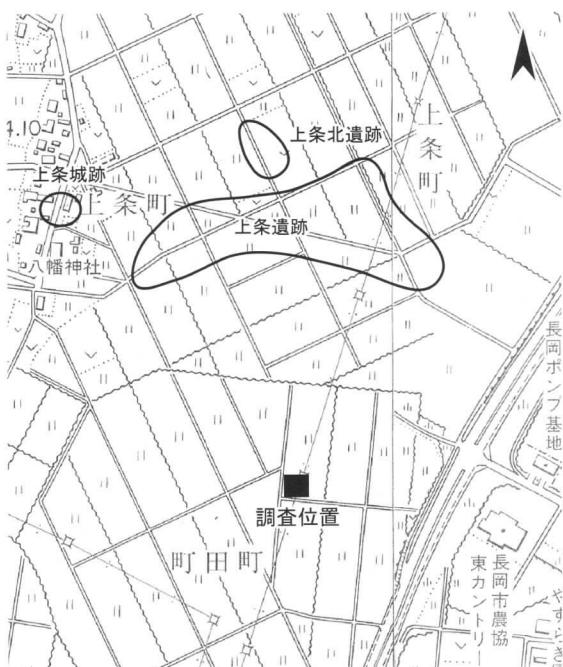
調査期間 平成 25 年 12 月 9 日

調査担当 山賀和也

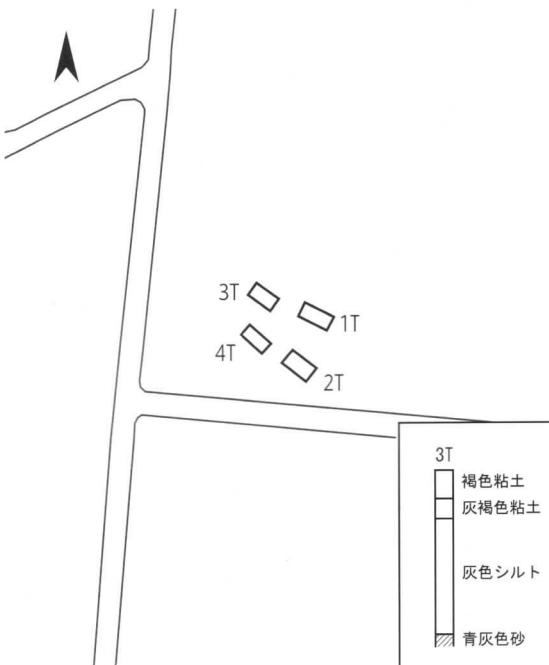
**調査に至る経緯** 送電線の鉄塔建設事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。事業計画地には、周知の埋蔵文化財は存在しないが、周辺に古代の上条遺跡及び上条北遺跡が位置しており、未発見の遺跡が存在する可能性があるため、試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することとなった。事業の着手が、平成 26 年以降に予定されていたため、平成 25 年秋以降に試掘調査を実施することで合意した。

**調査地の概要** 調査地は信濃川右岸の沖積地に位置しており、標高は約 25m である。現在は水田となっている。調査地の北側に上条遺跡及び上条北遺跡が隣接している。両遺跡は、平成 25 年 5 月に実施した上条高畠地区画整理事業に伴う試掘調査で発見された遺跡で、平安時代の遺物が出土している。

**調査の結果** 事業計画地に 2 × 4 m のトレーニングを 4 カ所設定し、バックホウと人力で慎重に掘削を行った。地表から約 45 cm 下から約 10 cm の黒色シルト層が確認できたが、遺物、遺構は発見されなかった。そのため、事業計画地には遺跡が存在しないと判断し、工事に支障がない旨を事業者に伝えた。



第3図 調査位置図 (1/10,000)



第4図 トレーニング配置図 (1/1,000)・土層図 (1/40)



写真2 3T完掘状況 (北西から)



写真3 3T土層断面 (北西から)

### 3 上条地区（土地区画整理）試掘調査

調査地 長岡市上条町 379 番地 1 ほか 調査面積 1,613.0 m<sup>2</sup> (対象面積 331,000 m<sup>2</sup>)  
調査期間 平成 25 年 5 月 13 日～5 月 21 日 調査担当 山賀和也

**調査に至る経緯** 上条町では、上条高畠土地区画整理事業及び医療法人立川メディカルセンター建設事業が計画され、平成 24 年 10 月 29 日に埋蔵文化財の取り扱いについて、事業を所管する長岡市都市整備部都市開発課と協議を行った。事業計画地には、周知の埋蔵文化財は存在しないが、未発見の遺跡が存在する可能性があるため、試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することとした。事業の着手が、平成 25 年秋以降に予定されていたため、平成 25 年春に試掘調査を実施することで合意した。

**調査地の概要** 調査地は信濃川右岸の沖積地に位置しており、標高は約 24m である。調査地の西側の微高地上には加内遺跡や上条谷内遺跡、上条城跡が位置しており、現在では上条町が形成されている。

**調査の結果** 調査は、事業用地にトレントを 304 カ所設定し、掘削はバックホウで行い、遺構・遺物検出時には人力で精査を行った。遺物包含層は、GL -20 ~ 50cm 付近で検出されており、暗褐色～灰褐色粘土である。遺物は、須恵器、土師器が出土する。遺構は、灰黄色シルト層が遺構検出面で土坑と溝が検出された。169T の溝からは須恵器の壺や土師器の壺・甕などが多数出土している。

**出土遺物** 主要出土遺物 22 点を掲載した。1 ~ 10 は 169T 溝の出土である。1 ~ 3 は土師器無台椀で底部には回転糸切痕が見られる。器形は深身の椀状を呈し、法量には大小が認められる。1 は口径 11.9cm、器高 4.3cm、底径 5.4cm、2 は口径 13.5cm、器高 4.3cm、底径 6.8cm を測る。4 はハケメ成形の長甕で口径 21.2cm を測る。端部に面を持つ「く」の字口縁で、外面にハケメを施す。5 ~ 7 はロクロ成形の長甕で、「く」の字口縁となるもの (4・5)、有段状のもの (7) が見られる。体部片は図示できなかったが、叩きと当て具痕を有するものが定量出土していることから、須恵器製作技法を用いたロクロ成形の煮炊具が一定量存在すると考えられる。9・10 は佐渡小泊窯産の須恵器無台壺で、底部には回転ヘラキリ痕が見られる。法量は大小あり 9 は口径 12.1cm、器高 2.9cm、底径 7.8cm、10 は口径 13.6cm、器高 3.1cm、底径 6.8cm である。また、土錘 (8) は遺構外出土 (17・18) を合わせ 3 点が出土している。11 ~ 21 は IV 層出土で各トレントから出土した。11 ~ 15 は土師器無台椀で口径 11.0 ~ 14.8cm を測る。16 はロクロ成形の土師器鍋で口径 37.6cm を測り、体部はタタキ成形であろう。19 は小泊窯産の須恵器無台壺で、底部は回転ヘラキリ無調整である。法量は口径 12.6cm、器高 3.2cm、底径 8.1cm で、ロクロ目の幅は広く器面に凹凸が見られる。口縁部側面には「支ガ」と記す墨書が斜位に見られる。20 は須恵器大甕、21 は須恵器長頸瓶の体部片である。これらの遺物は、食膳具の形態や須恵器・土師器の量比などを考慮すると 9 世紀後半を中心とする時期に位置付けられよう。なお、22 は近世の唐津産擂鉢で I 層出土である。

**まとめ** 調査の結果、事業用地の中央部に上条北遺跡と上条遺跡の 2 カ所の遺物包含地の存在を確認し、埋蔵文化財包蔵地として登録した。上条北遺跡は、378T を中心とした小規模な範囲で、上条遺跡はその南側に東西に帯状に広がる遺跡である。遺物は、平安時代の遺物が出土しており、両遺跡とも 9 世紀後半を中心とする平安時代に属するものと考えられる。

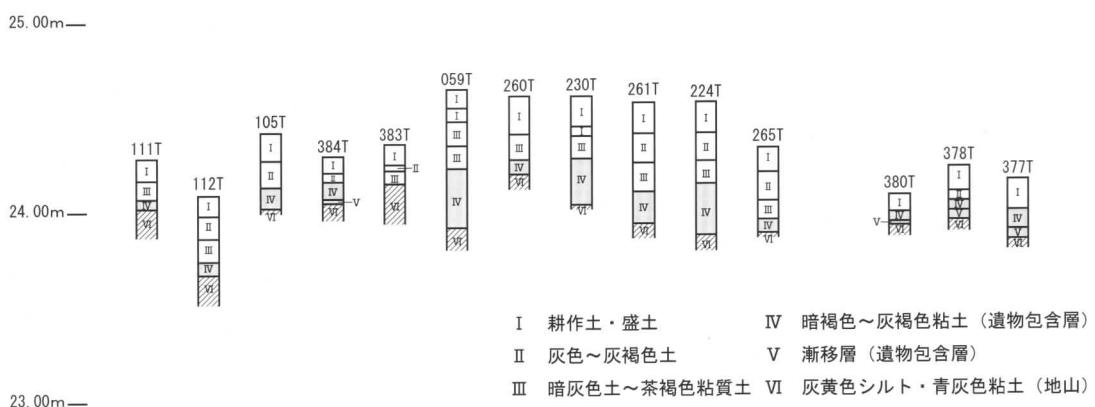


第 5 図 調査位置図 (1/20,000)

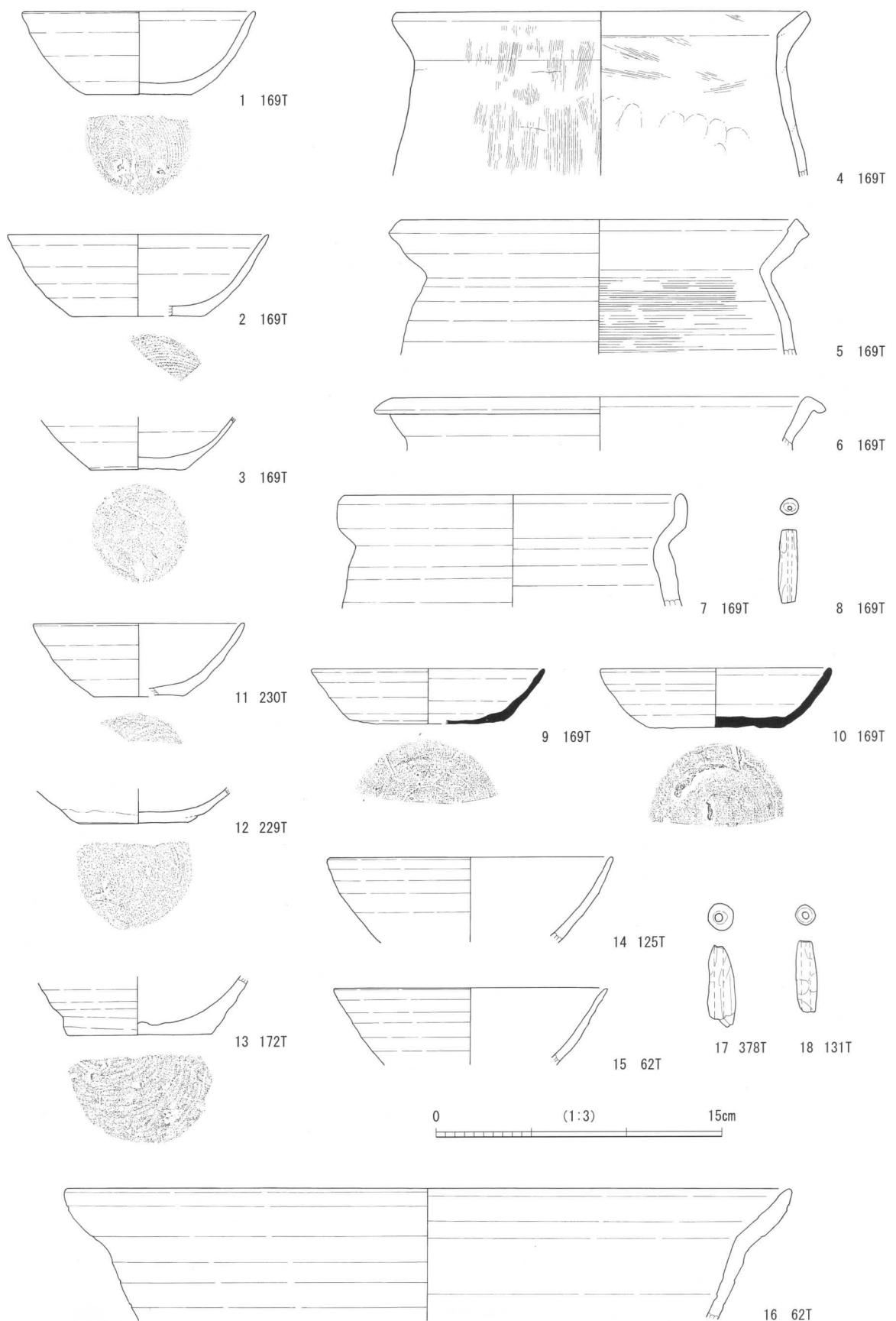
以上のことから事業者には、事業実施前の本調査が必要であることを通知した。この結果を受け協議を進めたが、医療法人立川メディカルセンター建設予定地が上条遺跡の範囲に入っており、計画変更が困難なため本調査を実施することで合意した。その他の開発については、事業計画と照らし合わせて遺跡の取り扱いについて協議を進めている。



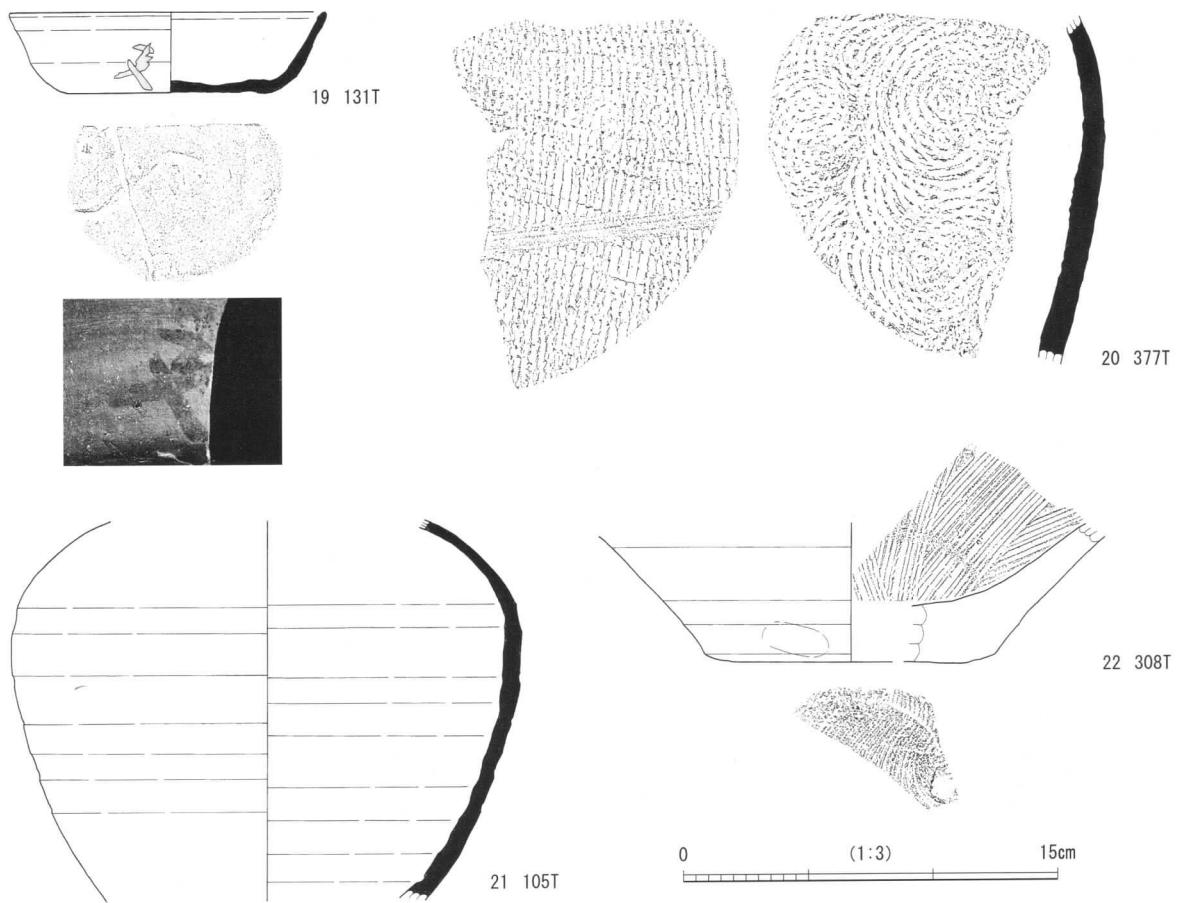
第6図 トレーニチ配置図 (1/5,500)



第7図 土層柱状図 (1/40)



第8図 遺物実測図①



第9図 遺物実測図②



写真4 調査地近景（東から）



写真5 169T 土層断面（南東から）



写真6 260T 遺構検出状況（西から）



写真7 378T 遺物出土状況（南から）

#### 4 上条地区（携帯電話鉄塔）試掘調査

調査地 長岡市上条町 491 番地 調査面積 12.4 m<sup>2</sup> (対象面積 60 m<sup>2</sup>)  
調査期間 平成 25 年 5 月 1 日 調査担当 山賀和也

**調査に至る経緯** 平成 24 年 6 月 5 日、携帯電話鉄塔建設事業に係る埋蔵文化財の取り扱いについて照会があった。事業計画地には、周知の埋蔵文化財は存在しないが、上条城跡に近接しており、周辺に遺跡が存在する可能性があるため、試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することになった。事業の着手は、平成 25 年秋に予定されていたため、平成 25 年春に試掘調査を実施することで合意した。

**調査地の概要** 調査地は信濃川右岸の沖積地に位置しており、標高は約 25m である。現在は水田となっている。調査地の東側に上条城跡が隣接している。上条城跡は、明治年間の地籍図から、土塁や堀を四周に巡らした一辺が約 100m の規模であったと推定される。しかし、宅地化や過去の土地改良などにより、今では郭や土塁などは失われている。

**調査の結果** 事業計画地に 3 × 4 m のトレーナーを設定し、バックホウで慎重に掘削を行った。地表から約 45 cm 下から約 10 cm の黒色シルト層が確認できたが、遺物、遺構は発見されなかった。そのため、事業計画地には遺跡が存在しないと判断し、工事に支障がない旨を事業者に伝えた。



第 10 図 トレーナー位置図 (1/2,500) 及び土層柱状図 (1/20)



写真 8 完掘状況 (東から)



写真 9 土層断面 (東から)

## 5 日越地区試掘調査

調査地 長岡市日越 1410 番地ほか 調査面積 167.7 m<sup>2</sup> (対象面積 8,000 m<sup>2</sup>)  
 調査期間 平成 25 年 11 月 19 日～11 月 22 日 調査担当 山賀和也

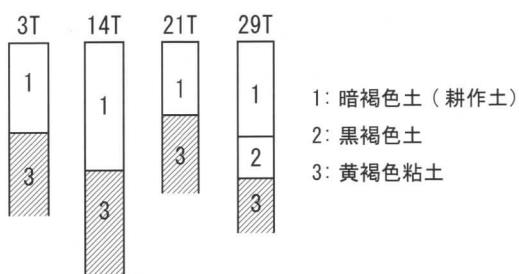
**調査に至る経緯** 長岡市立総合支援学校のグラウンド等整備事業が計画され、科学博物館は、事業者である長岡市教育委員会教育施設課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を行った。事業計画地には、周知の埋蔵文化財は存在しないが、周辺に日越原遺跡が存在するため、未周知の遺跡が存在する可能性があることから試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することとなった。調査の実施時期は、平成 25 年の秋以降に実施することとした。

**調査地の概要** 調査地は信濃川左岸の河岸段丘の閑原面上の標高約 66m のところに位置し、西から東にかなり傾斜する地形となっている。現在は畠地である。周辺には、日越原遺跡のほか、縄文時代中期～後期に集落が営まれた国指定史跡馬高・三十稻場遺跡が位置している。

**調査の結果** 事業計画地に 1.8×3 m のトレンチを任意に 33ヶ所設定し、バックホウで慎重に掘削を行った。各トレンチでは、耕作土である暗褐色土（1層）が 20～40cm 堆積し、その下は黄褐色粘土層（3 層）であったが、調査区の東側の 26～32T では黒褐色土（2 層）が堆積していた。遺構・遺物は、4 T で縄文土器 1 点出土したのみでその他のトレンチでは発見されなかった。そのため、事業計画地には遺跡が存在しないと判断し、工事に支障がない旨を事業者に伝えた。



第 11 図 調査位置図 (1/50,000) 及びトレンチ配置図 (1/3,000)



第 12 図 土層柱状図 (1/20)



写真 10 29T 完掘状況 (西から)

## 6 稲場遺跡確認調査

調査地 長岡市寺泊大地 317 番地ほか 調査面積 10.0 m<sup>2</sup> (対象面積 650 m<sup>2</sup>)  
調査期間 平成 25 年 12 月 9 日 調査担当 加藤由美子

**調査に至る経緯** 長岡市教育委員会は、寺泊潟地区内における県営経営体育成基盤整備事業（事業者：新潟県長岡地域振興局）に伴う埋蔵文化財の試掘確認調査を、平成 16 年度から平成 20 年度にかけて実施した。事業対象地内にある稻場遺跡（長岡市 No.1249）は平成 13 年度に登録された古代の遺物包含地で、これまでに須恵器の甕・横瓶・無台壺、土師器の甕、焼土塊が採集されている。平成 19 年度実施の試掘確認調査では、古代の包含層の分布やピット・溝等の遺構が確認され、平成 22 年 6 月には近接する中使面遺跡（同 No.1283）と統合し、総面積が 650 m<sup>2</sup> となった。

基盤整備事業の実施にあたっては、平成 19 年度の試掘確認調査の結果を元に、遺跡に掘削が及ぶ用排水路部分を中心に本発掘調査を行う旨で事業者と協議を進めてきた。しかし、昨年完成した実施設計に田面高調整の掘削が遺跡部分にも及ぶ計画が盛り込まれており、当初考えていた本調査面積を根本的に見直す必要が生じた。今回の調査は、田面高調整の掘削が及ぶ範囲での遺跡の内容を明らかにすることを目的とし、掘削予定範囲に 1 m × 2 m の調査区を 5 か所設定した。掘削はバックホウと人力で行い、埋め戻しに際しては翌春の地盤沈下を防止するため、重機による転圧を行った。

**調査地の概要** 遺跡は日本海に沿って伸びる東頸城丘陵の内陸側に位置する。遺跡が立地する大地集落は、東頸城丘陵から派生した小丘陵の裾部に形成され、遺跡はその家並から田んぼにかけて広がる。現在一帯は寺泊地域有数の穀倉地帯であるが、大正時代までは遺跡の東側に円上寺潟という大きな潟が存在した。近世から幾度となく排水事業が試みられ、完全に乾田化したのは大正期に大河津分水路の工事残土による埋め立てが行われてからである。

**調査の結果** いずれの調査区でも遺構・遺物は確認できなかった。先の試掘確認調査で把握した遺物包含層に相当する層（Ⅲ層）は確認できたが、小片の遺物も出土しなかった。

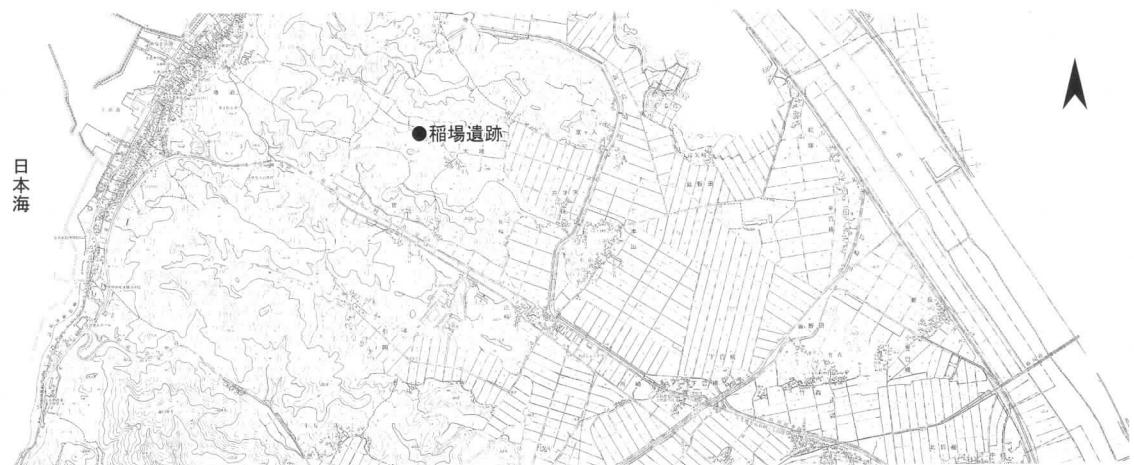
**まとめ** 調査により、稻場遺跡の範囲は現状の範囲より西側には広がらないことが判明した。また、5 T の調査結果から、田んぼ側にも大きくは広がらないことが想定される。そもそも稻場遺跡の発見は、道路工事により削り取られた丘陵裾部の崖面から、大量の須恵器・土師器が採集されたことに端を発している。遺跡の本体は田んぼ側というよりむしろ集落側の丘陵緩斜面、現在の大地集落の直下にある可能性が高い。今後はこの調査結果を元に、遺跡の取り扱いについて事業者と協議を行う予定である。



写真 11 調査風景



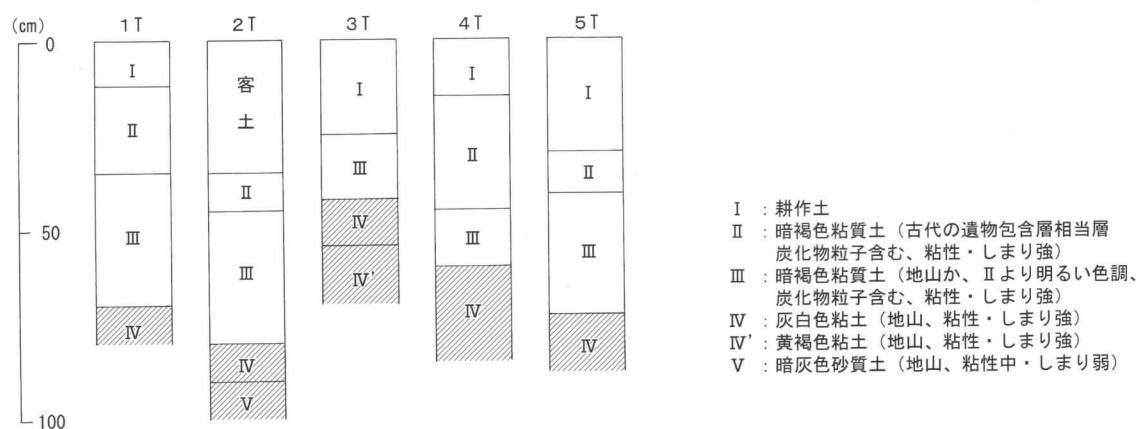
写真 12 4 T 堆積状況 (東から)



第13図 調査地位置図 (1/50,000)



第14図 トレンチ配置図 (1/2,500)



第15図 土層柱状図 (1/20)

## 7 高山城跡確認調査

調査地 長岡市高島町字新保 地内  
調査期間 平成 25 年 4 月 10 日～15 日

調査面積 428.6 m<sup>2</sup> (対象面積 141,000 m<sup>2</sup>)  
調査担当 新田康則

**調査に至る経緯** 平成 22 年 6 月 15 日自動車学校の拡張事業に係る埋蔵文化財の取扱いについての照会があった。照会地の一部が高山城跡の範囲に及ぶため、事前に確認調査を実施して遺跡の広がりと包蔵状況を確認し、それを事業計画に反映させることとした。その後、平成 24 年 12 月、高山城跡を含む範囲について農用地利用計画変更申請が行われたため、雪解け後に確認調査を実施した。

**調査地の概要** 信濃川右岸の沖積地に形成された自然堤防上に位置する。文化 12 年 (1815) 刊行『越後野志』に、慶長 3 年 (1593)、堀秀治の伯父堀将監が高山城を落として居住したとする記述があるが、詳細は不明である。明治 23 年 (1890) の地籍図からも館の所在を読み取ることはできない。

**調査の結果** 対象地内において 14 箇所のトレンチ調査を実施した。調査地全体において遺物包含層となり得る層は削平・搅乱されほぼ消滅していた。1 T では溝状プランに伴って珠洲焼の擂鉢片、10 T では溝跡と、その底面付近から須恵器甕片、11 T では溝跡・土坑と、その覆土から少量の土師器片を確認した。8 T と 9 T でも溝を検出している。9 T 検出の溝は 10・11 T 検出のものと連続する可能性が高い。対して 8 T 検出のものは、これらと長軸を約 110°違え、全長も推定約 5 m と短く、断面形態も V 字～漏斗状を呈するなど、様相を異にする。

出土遺物を第 20 図に示した。1 はロクロ成形の土師器甕。11 T の溝に絡む土坑覆土から出土した。2 は須恵器の叩甕で、10 T の溝覆土底部からの出土。体部外面と破断面が著しく磨滅しており、砥石としての二次利用が想起される。3 は珠洲焼の擂鉢。1 T の溝状プランで検出。外面はロクロナデされるが、底部付近にヘラ状工具の圧痕が残る。内面には 8～9 条の卸目が入る。15 世紀後半の所産だろう

**まとめ** 調査結果に拠って事業者と協議した結果、事業計画が変更され、遺跡は現状保存された。9 から 11 T に継ぐ溝の覆土からは古代の土器がごく少量出土したが、溝の形状や遺物出土状況からこの時期に帰属するとは考え難く、より後世のものと判断される。しかし、中世～近世初期の遺物は 1 T 出土の珠洲焼片のみであり、今回検出した溝を高山城跡のものとするには極めて乏しい材料と言えよう。



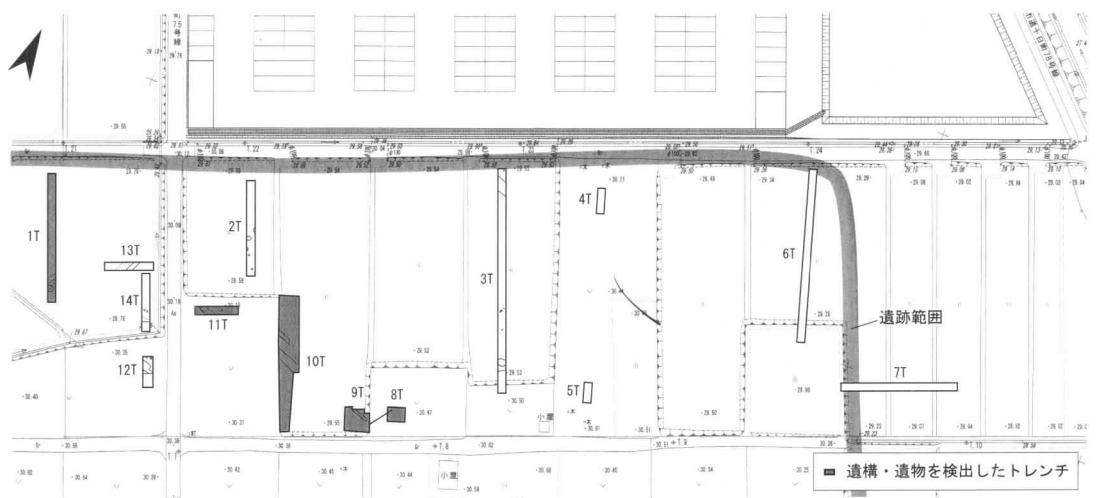
第 16 図 調査地位置図 (1/25,000)



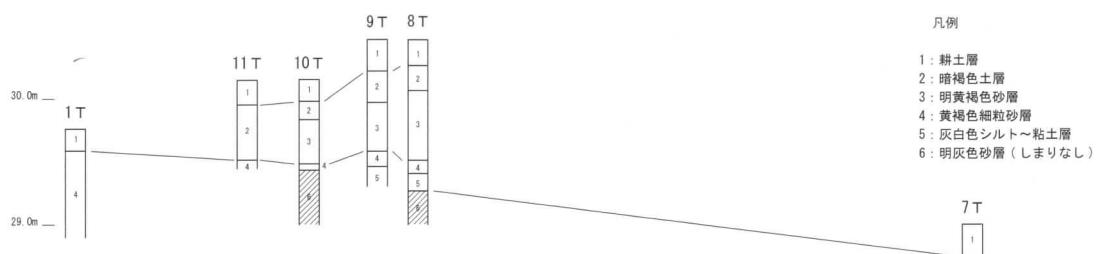
写真 13 調査地近景 (西から)



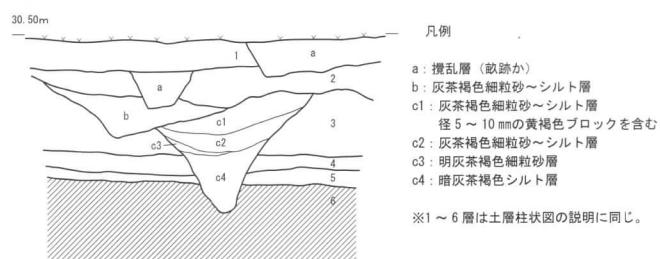
写真 14 1 T 遺物出土状況 (南から)



第17図 調査トレンチ配置図 (1/1,500)



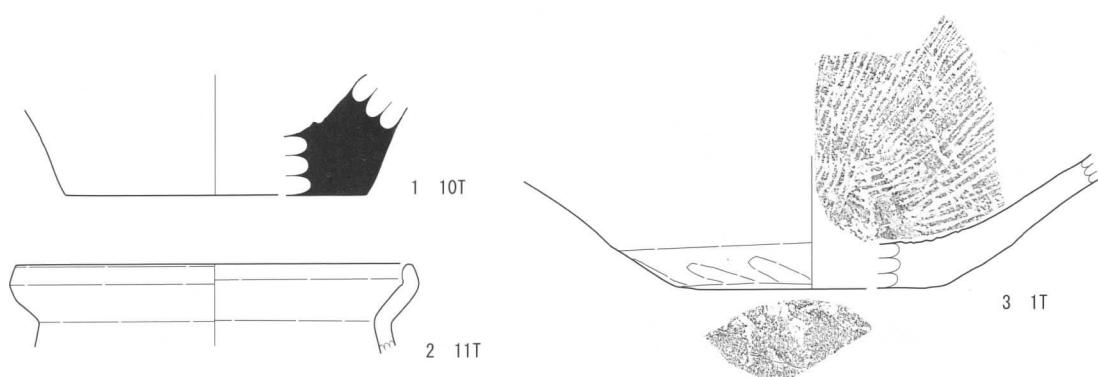
第18図 土層柱状図(1/60)



### 第19図 8T西壁断面図 (1/60)



写真 15 10T車壁 溝検出状況



## 第20図 遺物実測図 (1/3)

## 8 芹川地区試掘調査

調査地 長岡市芹川町 1343 番地 3 ほか 調査面積 18.6 m<sup>2</sup> (対象面積 450 m<sup>2</sup>)  
調査期間 平成 25 年 12 月 11 日 調査担当 山賀和也

**調査に至る経緯** 平成 21 年 10 月に市道下川西 83 号線道路改良事業が計画され、事業者である長岡市土木部道路建設課と埋蔵文化財の取り扱いについて協議を開始した。事業計画地には、周知の埋蔵文化財は存在しないが、周辺に区内遺跡が位置しており、未発見の遺跡が存在する可能性があるため、試掘調査を実施し、遺跡の有無を確認することになった。その後事業者と協議を重ね、事業の進捗状況に合わせて平成 25 年秋以降に試掘調査を実施することで合意した。

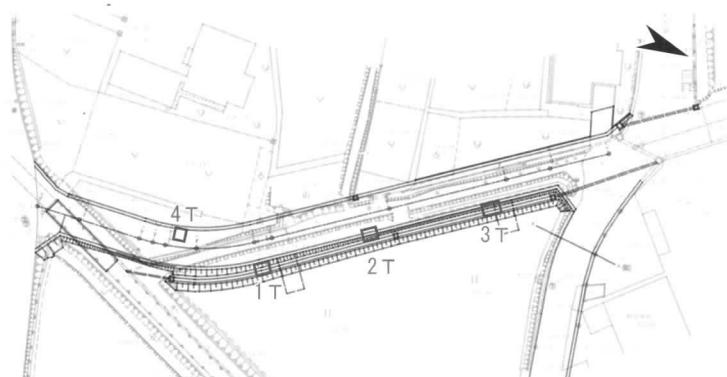
**調査地の概要** 調査地は信濃川左岸の沖積地の自然堤防上に形成されている芹川町の東端に位置しており、標高は約 17m である。現況は水田及び畑となっている。芹川町の北西には、戦国時代に築かれたと推定される芹川城跡が位置している。芹川城は、昭和初期の土地改良などにより、堀などの遺構は失われているが、明治年間の地籍図から、堀をめぐらした複郭式の構造を持つ大規模な縄張りであったことが推測されている。

**調査の結果** 事業計画地に約 2 × 3 m のトレンチを 4 カ所設定し、バックホウと人力で慎重に掘削を行った。1 T・2 T では耕作土下に盛土と思われる暗灰色粘土が堆積していたが、3 T で全く堆積が確認できなかったため、地山の地形は北から南にゆるく傾斜しているものと考えられる。4 T では、石を多量に含む黄褐色砂が厚く堆積し、過去に水田であった場所を盛土したものと思われる。

調査の結果、遺物、遺構は発見されなかったため、事業計画地には遺跡が存在しないと判断し、工事に支障がない旨を事業者に伝えた。



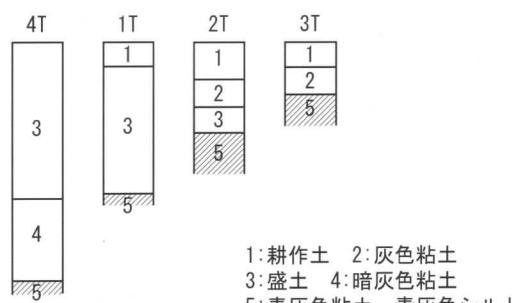
第 21 図 調査位置図(1/20,000)



第 22 図 トレンチ位置図 (1/1,000)



写真 16 3T 土層断面(西から)



1:耕作土 2:灰色粘土  
3:盛土 4:暗灰色粘土  
5:青灰色粘土～青灰色シルト

第 23 図 土層柱状図 (1/30)

## 参考文献

中村孝三郎

1966 『先史時代と長岡の遺跡』 長岡市立科学博物館

長岡市

1992 『長岡市史』資料編1 考古 長岡市

長岡市教育委員会

2006 『平成17年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2007 『平成18年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2008 『平成19年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2009 『平成20年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2010 『平成21年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2011 『平成22年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2012 『平成23年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

2013 『平成24年度長岡市内遺跡発掘調査報告書』 長岡市教育委員会

八重樫由美子

2006 「長岡市稻場遺跡採集の土器」『越佐補遺些』第11号 越佐補遺些の会

吉岡康暢

1994 『中世須恵器の研究』 吉川弘文館

和島村教育委員会

2003 『下ノ西遺跡IV 一県営圃場整備事業(桐島桐原地区)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書一』 和島村教育委員会

## 報告書抄録

ふりがな	へいせいにじゅうごねんどながおかしないいせきはくつちょうさほうこくしょ					
書名	平成25年度長岡市内遺跡発掘調査報告書					
副書名						
巻次						
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著者名	新田康則・丸山一昭・加藤由美子・山賀和也					
編集機関	長岡市教育委員会					
所在地	〒940-0072 新潟県長岡市柳原町2番地1					
発行年月日	2014年1月31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯 東経	調査期間	調査面積	調査原因
じょうじょういせき 上条遺跡	にいがたけんながおかしじょうじょうまちあざやつぐち379(ばんち)ほか 新潟県長岡市上条町字ハツ口379番地1他	152021 1442	372522 1385130	20130513 20130521	216.0m <sup>2</sup>	試掘・確認調査
じょうじょうきたいせき 上条北遺跡	にいがたけんながおかしじょうじょうまちあざやつぐち361(ばんち)ほか 新潟県長岡市上条町字ハツ口361番地1他	152021 1443	372526 1385122	20130513 20130521	17.4m <sup>2</sup>	試掘・確認調査
いなばいせき 稻場遺跡	にいがたけんながおかしてらどまりおおじ317(ばんち)ほか 新潟県長岡市寺泊大地317番地1他	152021 1249	373821 1384711	20131209 20131209	10.0m <sup>2</sup>	試掘・確認調査
たかやまじょうあと 高山城跡	にいがたけんながおかしたかしままちあざしんぱ1895(ほか) 新潟県長岡市高島町字新保1895番地1他	152021 141	372323 1384950	20130410 20130415	428.6m <sup>2</sup>	試掘・確認調査
ふりがな 所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項	
じょうじょういせき 上条遺跡	遺物包含地	古代	溝・土坑	須恵器・土師器・土鍤	なし	
じょうじょうきたいせき 上条北遺跡	遺物包含地	古代	なし	須恵器・土師器・土鍤	なし	
いなばいせき 稻場遺跡	遺物包含地	古代	なし	なし	なし	
たかやまじょうあと 高山城跡	城館跡	古代・中世	溝・土坑	須恵器・土師器・珠洲焼	なし	

## 平成25年度 長岡市内遺跡発掘調査報告書

平成26(2014)年1月31日 印刷

平成26(2014)年1月31日 発行

発 行 新潟県長岡市教育委員会

印 刷 株式会社サンワプロセス